



天草史料調査会の旗揚げ

1997年8月3日夜、熊本県本渡市の民宿の一室において、本史料調査参加者の拍手による賛同により、「天草史料調査会」が正式に発足した。なおその場でイギリスに留学中の本会代表の安藤正人氏からも1000字を越えるメッセージが届き、参加者の感動を誘った。

まず第一に、本会設立に至る経緯について述べよう。1996年3月から刊行が開始された『本渡市古文書史料集 天領天草大庄屋木山家文書 御用留写帳』の関係などから度々天草を訪れていた安藤氏の呼びかけにより、1995年の8月上旬、本渡市立歴史民俗資料館に架蔵されている本渡市宮地岳町中西家文書の第1回調査が行われた。段階的整理法に基づき、保存容器数83、総点数2万点以上にのぼる本文書の概要調査が、のべ人数33人により終了した。96年8月には第2段階の内容調査に着手し、のべ人数29人により約1500点の目録作成を終了した。また引き続き翌日には、河浦町新合蓑田家文書の蔵出し（現状記録）

を行い終了した。保存容器数・総点数などの詳細は概要調査が終了していないため不明であるが、数千点のオーダーに達すると予想される。

第二に、本会が行っている史料調査の方法をごく簡単に紹介したい。記録史料を「誰もが自由に」「科学的に」「永続的に」利用できることを目的とした、文書館学的史料調査論に基づき、蔵出し→概要調査→内容調査という段階的整理法を適用した調査方法である。その詳細については、概要調査報告書の刊行や、毎年のニュースレターで果たすつもりであるが、記録媒体として写真や図面・スケッチを併用し、専用の用紙にマニュアルに基づいて記入する無理のない方法をとっている。また調査にあたっては、概要調査・内容調査の要領と方法、調査対象地域の概略、これまでの調査の経過と成果などをまとめた資料(調査のしおり)を参加者に配布し、作業の一助とした。なお毎日夜には宿舎でミーティングを行い、その日の各人の作業の成果を報告し、翌日の作業方針を討議することで、調査方法の統一と参加者の体験の共有につとめている。

第三に、こうした活動を行うに至った背景について少し補足しておこう。1980年代後半以降、欧米の文書館学の影響を受けた科学的史料調査方法がフィールドワークの現場でも導入され、全国各地で自主的な史料調査ボランティア団体が活動を行っている(房総史料調査会・茨城史料調査会・甲州史料調査会・南予古文書の会・三浦田中家文書調査会・歴史史料保存ネットワーク(史料ネット)など)。このような地域に密着した形での史料保存運動の高まりという近年の状況の中で、本会もその旗揚げを行った。それを反映してか、今回の調査参加者も、茨城・東京・神奈川・京都・岡山・山口・香川・福岡の各都道府県にわたっており、史料調査そのものに関心をもつ者や、アーキビスト・自治体史編纂室など現場の人間が多い。

第四に、こうして設立された本会の組織の

あり方について簡単にふれておく。昨年夏の調査終了時点での、参加者による本調査会の設立についての話し合いの結果に基づき、当面は5名の委員(代表:安藤正人、幹事:本多康二・富善一敏ほか2名)だけを決めて、会則などは設けないラフな組織で活動していくことにしている(事務局:熊本県本渡市立歴史民俗資料館本多方)。ただ調査の度ごとのその結果の報告は、次回調査の準備、調査参加者への成果の還元のために必要なので、年1回程度簡単なニュースレターを発行し、それを会報とする予定である。

第五に、今後の課題と展望について、若干ではあるが箇条書き的に述べておく。

- ・地域への史料保存思想の普及活動として、講演会などを調査期間中に随時開催する。
- ・地域住民の方々に本会の調査に参加してもらい、史料調査の面白さを理解してもらう。また文書の内容などを随時お知らせし、地域の歴史への関心を呼び起こす。
- ・史料の保存手当については、史料調査の各段階に応じた保存措置を、長期計画を立案し無理のない方法で実施する。
- ・行政との良好かつ密接的な協力関係を維持する。

最後に一言。天草は確かに遠いですが、豊かな自然と海の幸が皆様をお待ちしております。一度遊びがてらおいで下さい。必ずやりピーターになられることと思います。

富善一敏・東京大学人文社会系研究科研究員